

<学校教育目標>学ぶ楽しさ 遊ぶ楽しさ つながる楽しさ

<本校の目指す子ども像> 自分大好き・友だち大好き・学校大好き

◆主体的に学習に取り組み、よく考える子◆認め合い、励まし合って仲良くする子◆運動に親しみ、健康で安全な生活を営む子

# 学校だより

6月号

令和6年(2024年)6月7日

豊中市立豊島小学校



5月下旬には、6年生にとって最大の行事である修学旅行に行きました。良い天気の中、子どもたちは日焼けしながら充実した2日間を過ごしました。原爆資料館、碑めぐりでは、戦争の悲惨さを目のあたりにし、セレモニーでは心を込めて祈りを捧げました。平和について子どもたちも様々なことを感じたと思います。2日目は、藻塩づくりを体験。藻塩をかけたジャガイモもおいしくいただきました。カッターや浜遊びなど楽しい体験をし、たくさんの思い出ができたと思います。修学旅行の取り組みを発表する、「修学旅行報告会」が楽しみです。



## 交通安全について

### 子どもの交通事故に注意

全国で子どもが巻き込まれる事故が相次いでいます。一年の中で、5・6月は小学生以下の死亡・重症事故が最も多いそうです。事故の多くは、横断歩道や歩道上で事故にあっているようです。月別では6月が最多で、5月が2番目に多いそうです。事故の多くは、子どもたちの下校時刻の3時から5時が多いことが分かっています。新学期が始まり子どもたちも学校に慣れ、気持ちが少しずつ緩むころなのかもしれません。横に大きく広がったりすると危険な交通量の多い道もあります。ご家庭でも「青信号であっても左右を確認して横断歩道を渡ること」、「右左折があるところは、飛び出さずに車に気を付けること」、「信号待ちでも前に出すぎずに不意の事故から身を守るようにすること」など、もう一度、子どもたちに伝えてほしいと思います。



「子どもの安全確保推進月間」

大阪府教育庁通知より

#### 【夏の交通事故防止運動推進要綱】

☆府内では7月から8月にかけて子どもの交通事故死者数は増加する傾向☆

- ・道路で遊んだり、飛び出しや無理な横断、信号無視はやめましょう
- ・信号が青でも必ず左右の安全確認をしましょう
- ・信号機のない横断歩道では、ドライバーに「目と手で合図」をして意思疎通を図り、安全に渡りましょう（横断歩道ハンドサイン運動）
- ・夕暮れ時や夜間に外出する時は明るい目立つ色の服装を心掛け、反射材を活用しましょう

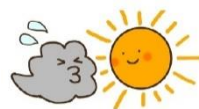
## 心の扉があることを知っていますか

全校朝会で心の扉の話をしました。どんな人にも心の扉があります。しかもその扉には、とってがつかないのです。外から開けようとしても絶対に開かない扉なんです。だから一度閉ざされると、外からどんな強い力で開けようとしても開かないのです。

たたいても怒鳴っても絶対にだめなのです。

人はどんなとき、固く心の扉を閉ざしてしまうのでしょうか。それはお友だちからいじめられたり、仲間はずれにされたりして、人が信じられなくなったときではないでしょうか。では、どうしたら心の扉は開くのでしょうか。実は心の扉は内側から開くようになっているのです。心の扉が内側から開く様子は、ちょうどお日さまの暖かさにお花が咲くのに似ています。

心の扉を閉ざしてしまったお友だちには、お日さまの暖かさが必要なのです。では、お日さまの暖かさってなんでしょう。



そこで、子どもたちにはイソップ物語の『北風と太陽』のお話を少し思い出してもらいました。旅人のマントを脱がせたのは、北風ではなく、太陽でした。太陽の暖かい日差しが旅人のマントを脱がしてしまいました。このようなお話だったと思います。

人の心の扉を開くのは、このお話に似ています。お日さまのような暖かさとはお友だちの思いやりや、やさしい言葉ではないでしょうか。

心の扉を閉じたままでは、お友だちもできませんし楽しい生活もできません。けっして幸せにはなれないと思います。

あなたの心はあなただけの宝物ですが、それはお友だちや先生、お父さん、お母さんの温かい心やさしい言葉に触れたとき、初めて扉が開き、宝物のように輝くのです。

太陽のような「やさしさのシャワーがふりそそぐ学校」。それは、本来私たちが求めている学校。理想とする学校だと思います。

子どもたちの心の扉がいつも開かれるよう、教職員一同見守ってまいります。

お子様のことで気になることがあれば、ご連絡をお願いします。

【全校朝会より】

## 学校運営協議会



『学校運営協議会』を開催いたします。学校運営協議会とは、学校と保護者や地域が知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させること。そして、信頼関係を深め、三者が一体となって学校運営の改善と児童生徒の健全な育成に取り組むことを目的としています。「地域とともにある学校づくり」について熟議していきます。

